

キャラクター名
復讐に駆られた亡霊

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ		ワークス	レネゲイドビーイングB	カヴァー	UGN	エージェント
	モルフェウス			年齢	?	性別	元女
オプション			年齢	?	性別	元女	
覚醒	生誕	衝動	憎悪	初期侵食率	45	%	
出自	旧き記憶	経験	殺戮の日々	邂逅	UGN		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	23
肉体	1	0	0			1	行動値	21
感覚	5	1	0		4	10	(非装備時)	21
精神	1	0	0			1	戦闘移動	26
社会	1	0	0			1	全力移動	52

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃	1		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
実験体	P	N		
父親	P 同情	N 憎悪		
橘井野狐	P 信頼	N 不安		
十 天鳥	P 信頼	N 不安		
ヴァルツ・クランプル	P 信頼	N 不安		
白呉	P 信頼	N 不安		
禍ツ鳥(染次)	P 親近感	N 嫌悪		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果: 衝動判定ダイス+Lv 基本侵蝕率+5								
幻影の騎士団	3	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: ラウンド中攻撃力+(Lv*3)ただしダメージを受けると解除								
サポートデバイス	3	6	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果: 能力値1つ選択 ラウンド中ダイス+(Lv*2) シナリオ/3回								
オリジン:ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: シーン中あらゆる達成値+Lv								
陽炎の衣	2	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: メインプロセス終了時まで隠密 シーン/Lv回								
インフィニティウェポン	5	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 攻撃力+(Lv+7) G値3 の白兵武器								
光芒の疾走	2	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 戦闘移動 封鎖無視 シーン/Lv回								
オプティカルレンズ	3	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: エンハイ組み合わせ時、攻撃力+感覚 シーン/Lv回								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: C値-Lv(下限7)								
光の舞踏	1	2	メジャー/リアクション	-	-	白兵	-	
効果: 感覚で行える								
デトナイトチャージ	3	4	メジャー	武器	-	白兵/射撃	リミット	
効果: 前提:オプティカルレンズ 攻撃力+(Lv*4) ただし判定後破壊								
咎人の剣	3	4	メジャー	-	-	白兵	リミット	
効果: 前提:インフィニティウェポン 前提で作成された武器は攻撃力+(Lv*5)								
ウサギの耳	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 聴覚の指向性を上げる 必要なら知覚								

本名: 山岡 凜

凜は山岡家の一人娘だった。彼女が育ったのは、香川県にある昔ながらの寂れた家屋。凜は私立の高松大学で教育学を学んだが、傾きかけた家計にとってこれは重い負担となった。また、同年に母親が病氣になったことで、借金はどんどん膨れ上がった。凜は少しでも家計を救おうとバイトに励んだが、負債額が減ることはなかった。日々増えていく借金。凜の父親は、その状況を打破すべく、勤務時間を倍にして働き始め、昇進を目指した。しかし、その頃から彼は睡眠不足に悩まされるようになった。絶望的な状況を突きつけてくるような悪の囁きに毎晩うなされるようになったのだ。疲れ果てた彼は、今の状況を説明し、ボーナス、前払い、休みなど、あらゆるものを乞うてみたのだ。しかし、彼の欲求は拒否された。彼の働く会社は、その頃、製品ラインの一部に欠陥が見つかり、甚大な損害を出していた。誰かが責任を負わざるを得ないその状況で、凜の父親に白羽の矢が立ってしまったのだ。結果、彼は22年間勤め上げた会社から呆気なく解雇された。

その晩、凜は仕事を終えて帰宅した。いつもレストランに遅くまで残っては、客の相手をしていたのだ。自転車を倉庫に止めていると、屋内から母親の悲鳴が聞こえてきた。凜は家に駆け込み、階段を登って両親の部屋に向かった。床には、母親のバラバラの死体が散らばっていた。すっぱりと切り落とされ、不自然に絡まりあう手足。切り開かれた胸郭が飛び出た胸部。凜は思わず吐きそうになった。

